

中部支部巡検会の報告：丹那断層の見学

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-05-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 桜井, 美津夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025131

中部支部巡検会の報告

～丹那断層の見学～

桜井美津夫*

函南町田代地区で、丹那断層の掘削調査が行われるという情報を得て、2月13日に現地に出かけた。参加者は長島、兼高、青木、桜井の4名である。

今回の掘削調査は、東京大学地震研究所、広島大学、山梨大学、京都大学が合同で、丹那断層の中央部の詳細な位置、北伊豆地震（1930年）と過去の活動の横ずれ変位量を明らかにすることを目的として、1月31日から3月3日までの予定で行われた。また、この調査は一回の地震による横ずれ量を推定する手法を確立し、他の断層への適応の可能性をさぐる試みもなされていた。

丹那断層のような横ずれ断層は地層に痕跡が現れにくく、掘削調査でずれの大きさを測ることは難しいとされてきた。今回は「ジオスライサー」という地層抜き取り装置が使われていた。ジオスライサーは、広島大、東大地震研究所、山梨大、復建調査設計KKで共同開発されたもので、長さ4m、幅40cmと長さ2m、幅1.5mの2種類ある。へこみのある2枚の鋼板をバイブロハンマーで細かく振動させながら地面に打ち込み、へこみ部分に地層を採取する装置である。予想される断層を横断するように一定間隔で抜き取り、地層面を観察していた。

火雷神社の北方50m程の水田に掘られたトレンチに新たな断層面が確認されたところで、丁度そこに到着した私達は新鮮で、複雑に乱れた地割れ跡と断層を観察することができた。調査の最中ということで、トレンチに降りて説明を受けることはできなかったが、新鮮な断層面を見ることができたことは貴重な体験であった。

ここでの観察の後、乙越地区の国指定天然記念物「丹那断層」を見学した。最近この付近はよく整備され、断層を横断してカットした断面によって、ずれの大きさがよく観察される。また、断層の北方延長が一望できる場所でもある。断層の景観模型・トイレも設置され、一見の価値がある。



* 静岡市立北沼上小学校